

# 8 豊かな水辺をめざして



大和川を美しく、豊かな水辺にするために、わたしたちにはどんなことができるだろう。みんなで考えていこう！



▲大和川クリーンキャンペーンのシンボルマーク

## (1) 大和川クリーンキャンペーン

大和川流域では、多くの人びとが大和川に親しみ、自然のとうとさを学ぶことによって、川の大切さを考えてもらおうと、1985（昭和60）年から毎年、大和川クリーンキャンペーンで、さまざまなイベントが行われています。



▲大和川・石川クリーンキャンペーン（1998（平成10）年）



▲寺川上流での、かっばる自然調査隊のようす（1998年）

「僕たちの大和川！」  
「私たちの大和川！」  
「みんなで、しらべているうちに」  
「川がとも汚れているのがわかりました」  
「そして川を汚しているのは、私たちがわかりました」  
「いろいろな魚や昆虫がたたくさうで」

「きれいな草花がいっぱいある」  
「そんな川で遊びたい」  
「奈良と」  
「大阪の」  
「大和川を」  
「みんなで、もう一度」  
「自然いっぱい川にしよう」  
「美しい、きれいな大和川にしよう」

▲水の‘わ’子ども生き物宣言（1998年のクリーンキャンペーン作品表ししょう式で発表）

大和川クリーンキャンペーンでは、大阪府と奈良県の小学生・中学生によびかけて、絵や作文を集めています。下の絵や作文から、感じたこと、考えたことを話し合ってみましょう。



▲奈良県大和郡 山市 小学校5年生（1985年）

ごみは、かならず持って帰ろうね。



▲大阪府大阪市 中学校3年生（1986（昭和61）年）

大和川をきれいにしよう

ブルブル、ブルブル、……じゅ話をとると、ふじい寺のおばあちゃんの声が聞こえました。  
「あやちゃん、今日、大和川のクリーンキャンペーンがあるから来ない？」というさそいの電話でした。  
大和川のクリーンキャンペーンというのは、5月のれんきゅうの一日に、大和川の河原で行われるもよおしものです。ぬいぐるみのげきや、大きなトランポリンのあそびがあったり、川のそうじをしたりします。  
大和川について、たくさんの人たちが、「ゴミを大きなビニールぶくろに、いっぱいあつめていました。そのぶくろが山のようにつみあげられていました。」  
「うわあ、すごい。まだゴミあるかな。」  
と、心ばいになってきました。なぜかというと、ビニールぶくろにゴミをいっぱいあつめないと、ジュースがもらえないと思っただからです。  
さっそくあつめはじめました。「ゴミはさみとぐん手をかりました。みんなに拾われたのがゴミはなかなか見つかりません。時々見つかるのは、たばこのすいがらぐらいでした。「もうとられてしまったからゴミないネ。」  
と、おあさんも、ためいきをつきながら言いました。そのとき、マイクで  
「みなさん、まだ向こうの方にゴミがいっぱいありますので、い動してとりにいってください。」  
というほうそうがかかりました。  
そこには、花火のぼう、発ほうスチロールのかけら、あきピン、あきかん、ペットボトルなどがたくさん落ちていました。いちばんびっくりしたのは、お兄ちゃんが見つけた鳥の頭がいこつやほねでした。みるみるうちにいっぱいになっていくふくろを見て、もつときれいな川にしないといけないと思いました。

▲大阪府美原町 小学校3年生（1997（平成9）年）

わたしたちも川をきれいにする方法を考えてみよう。



## (2) 子どもたちからの提案<sup>ていあん</sup>

1995（平成7）年、大阪府は水遊びや生き物の観察<sup>かん</sup>などを通して、楽しみながら、生活に深くかかわりのある水について考えるために、大和川・石川流域<sup>りゅういき</sup>の小学生・中学生による水かん境サミット<sup>きょう</sup>をかいさいし、「川をきれいにする10の方法」<sup>ほうほう</sup>などを発表<sup>はっぴょう</sup>しました。

### 川をきれいにする10の方法

河内長野市南花台 東小学校の子どもたちの提案<sup>かわちながの なんかだいひがし</sup>

- ① みんなに今の川のじょうたいをよく知ってもらおう。
- ② 地球に住む人、一人ひとりが川にごみをすてない。
- ③ ごみを川にすてたらばっ金、このばっ金を下水しよ理場をつくるのにまわす。
- ④ 下水道<sup>げすいどう</sup>の工事をもっと進める。
- ⑤ 21世紀に向けて、水をきれいにする機械<sup>きかい</sup>を開発<sup>かいぱつ</sup>。
- ⑥ せんざいはみんなが無<sup>む</sup>リンにして、できるだけよ分なものは使わない。
- ⑦ 油<sup>あぶ</sup>を集めて公民館<sup>こうみん</sup>でリサイクルする。
- ⑧ 川にあるごみを拾<sup>ひろ</sup>ってきれいにする。
- ⑨ 各家<sup>かく</sup>、マンションの地下<sup>ちか</sup>にかんたんなる過<sup>か</sup>そう置<sup>ち</sup>をつくる。
- ⑩ 一人ひとりが、川の水をきれいにする努力<sup>どりょく</sup>をする。



▲発表する子どもたち

## (3) 地域と協力するとりくみ<sup>ちいき きょうりょく</sup>

### 1 大和川清流ルネッサンス21<sup>せいらりゅう</sup>

21世紀までに大和川の水をきれいにし、いろいろな生き物がすめる川にもどすために、1994（平成6）年に大和川清流ルネッサンス21計画<sup>けいかく</sup>がつけられました。この計画を進めるために、国や大阪府、奈良県と大和川流域の38の市町村が協力<sup>きょうりょく</sup>して、じょう化しせつや下水道<sup>せいび</sup>の整備をしたり、地域の人びとと協力して大和川をきれいにするとりくみを行っています。また、佐保川や石川などでは、魚などを放流<sup>ほうりゅう</sup>しています。



▲魚の放流（1997（平成9）年、奈良県王寺町）



▲清流復活大作戦（1998（平成10）年、王寺町）

### 2 大和川水かん境サミット

国や大阪府、奈良県は、子どもたちをはじめ、大和川流域の人びとの、川をきれいにしたいという願<sup>ねが</sup>いを受けて、1996（平成8）年に大和川水かん境サミット<sup>けっか</sup>を行いました。この結果、地域の人びとと協力して、国と大阪府、奈良県がいっしょになって大和川をきれいにしていくことを決めました。そして、大和川の水がいちばんよごれる2月を水質改ぜん強化月間<sup>すいしつがい</sup>としたり、川をきれいにする活動をしている人びとの手助けをしたりしています。

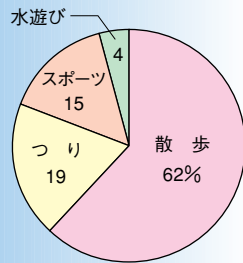


▲サミットの様子（大阪府知事、奈良県知事、建設省の三者）

# 親水

カヌーやボート、つりや水遊び、散歩などの活動を通して、川などの水に親しみ、身近に接することです。このような活動をするために、大和川流域では、国や大阪府、奈良県が、さまざまなしせつをつくっています。

## 大和川で何をしましたか

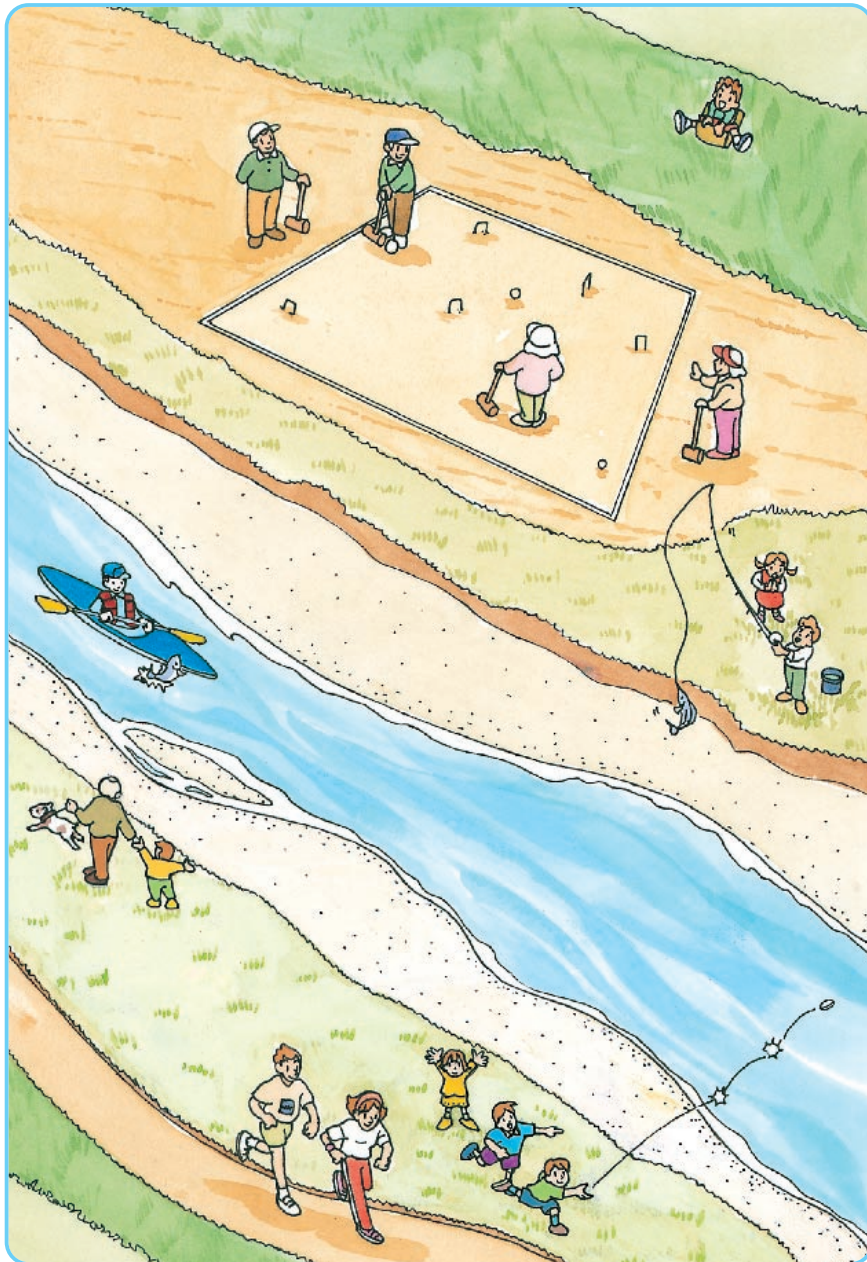


(1997年7月～1998年3月まで大和川を利用した人、1600人に聞いたもの結果)(大和川・河川水辺の調査)

# した (4) 川と親しむ

## 1 人びとのいこいの場所

川で魚つりを楽しむ子どもやお年よりがたくさんいます。また、川原を散歩したり、地区の人びとが花火大会をするなど、人びとのいこいの場所として、川はさまざまな形で利用されています。



## 2 子どもたちが「春ごと」を復活

「わあ、きもちいい！」

大和川の川原に子どもたちの声がひびきます。1987(昭和62)年4月、大阪市東住吉区矢田の子どもたちは、「春ごと」(豊作をいのるお祭り)という伝統行事を「春ごと矢田子どもまつり」として復活させました。

川わたりや土手すべり、マラソン、大なわとびなどが、毎年4月に大和川の川原で行われています。



▲川わたり



▲土手すべり



## 川と親しむ活動をしている澤井健二先生(摂南大学教授)の話

川をきれいにするには、まず川をよく知ることが大切です。そのためには、実際に川辺にでかけて水にふれることから始めましょう。つりでも散歩でもかまいません。身近な自然体験ができます。

しかし、川はいつでもどこでも安全とはかぎりません。十分な備えをして、決して無理をせず、おたがいに助けあって、事故のないように気をつけましょう。



▲1999(平成11)年3月に行われた「大和川・石川クリーン作戦」での交流ボート。

交流ボートは、組立式のアルミのほね組みと、ビニールを張った布でできています。10人乗りで、オールで水をかいて進みます。

## 親しみやすい川づくり

国は、1997(平成9)年に川に関するきまりを改め、治水、利水に加えて川の自然や親水性を大切にすることにしました。

また、それ以前から大阪府と奈良県では、親水地区、自然地区の区別を行い、水辺近くまでおられるように護岸を階だんにしたり、コンクリートの護岸に土をかぶせて、草や魚、虫などがもどりやすくなるくふうをしたりするなどのとりくみをしています。

自然をこわさないで生活する方法があるはずだよ。



かん境のことを考えるときは、地球規模で考え、身近なところから行動していこうよ。



▲「大和川クリーンキャンペーン」入賞作品（1998(平成10)年）

## (5) 明日の大和川を考える

大和川は、いちばんよごれていた1965～75（昭和40～50）年のころと比べると、少しずつきれいになってきていますが、今もよごれた水が流れこみ、平気でごみを川に投げすてる人があとをたちません。「これくらいまあいいか」ということでも、みんながすると大和川はもっとよごれてしまいます。逆にみんなが、もう少し川を大切に作るきもちをもつことができれば、きっと大和川は美しいみんなに愛される川に生まれ変わることでしょう。

これまで、この本で見てきたように、大和川はすばらしい歴史と文化をもち、たくさんの生き物がすむ豊かな自然があり、人びとのくらしに深いかわりをもつ大切な川です。

わたしたちの大和川をきれいにするために、自分に何ができるか、家族の人と話し合っ、できるこ

とを実行していきましょう。そして、これからも川を大切に作るきもちをずっとおぼえておい

### 「わたしたちの大和川」研究会（敬称略：50音順）

- |                               |                            |                         |
|-------------------------------|----------------------------|-------------------------|
| 帝塚山短期大学 教授<br>大伴公馬            | 天理市教育委員会 教育長<br>金澤 運       | 関西大学文学部 講師<br>黒田伊彦      |
| 堺市立向丘小学校 教諭<br>小松清生           | 摂南大学工学部 教授<br>澤井健二         | 奈良県立奈良商業高等学校 教諭<br>谷 幸三 |
| 奈良県教育委員会学校教育課 課長補佐<br>恒岡宗司    | 前八尾市教育委員会 教育長<br>西谷信次      |                         |
| 建設省近畿地方建設局大和川工事事務所 所長<br>西山幸治 | 大阪府教育委員会義務教育課 指導主事<br>藤原弘之 |                         |

### 執筆者（敬称略：50音順）

- |                               |                           |                      |
|-------------------------------|---------------------------|----------------------|
| 大阪市立古市小学校 教諭<br>井上和夫          | 東大阪市立繩手南小学校 教頭<br>梶本純生    | 関西大学文学部 講師<br>黒田伊彦   |
| 堺市立向丘小学校 教諭<br>小松清生           | 大阪市立苗代小学校 教諭<br>塩見 優      | 八尾市立刑部小学校 教諭<br>重森英昭 |
| 奈良県立奈良商業高等学校 教諭<br>谷 幸三       | 大阪市立鯉江小学校 教諭<br>中川信哉      |                      |
| 建設省近畿地方建設局大和川工事事務所 所長<br>西山幸治 | 奈良女子大学文学部附属小学校 教諭<br>廣岡正昭 |                      |
| 天理市立前栽小学校 教諭<br>松好伸泰          | 川西町教育委員会 社会教育主事<br>吉井基裕   |                      |

平成11年12月発行

◎監修・編集／「わたしたちの大和川」研究会

◎制作協力／大阪府教育委員会 奈良県教育委員会

大和川清流ルネッサンス21協議会

建設省近畿地方建設局大和川工事事務所

財団法人 河川環境管理財団

◎発行／「わたしたちの大和川」研究会

建設省近畿地方建設局大和川工事事務所

この本は、(財)河川環境管理財団の河川整備基金の助成金を得て、作られたものです。